

レジメン登録フォーマット

申請年月日	平成30年9月12日	使用開始日	
登録診療科	消化器内科・外科	申請医師	福永 睦
レジメン名	アービタックス【初回】+FOLFIRI		
疾患名	大腸がん	適応の備考	アービタックス初回患者の1コース目の計画登録にはこれを用いる。 アービタックスをすでに使用している2回目以降の患者、2コース目以降の登録には、アービタックス【2回目以降】+FOLFIRIを使用すること。 CVポート
適応分類	進行再発		
1コース日数	14 日間	総コース数	コース催吐性リスクday1:中等度、day8:最少度
抗がん剤投与量・投与日	アービタックス400mg/m ² day1、250mg/m ² day8、イリノテカン150mg/m ² day1、5-FU400mg/m ² day1、2400mg/m ² day1		
治療スケジュール・投与日程（投与日は●）	(day)		

投与順	ルート・方法	薬剤名	投与量	投与時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1	主ルート	生食20mL	1 本 / body		●													
	中心静脈注射		/															
2	主ルート	生食50mL	1 本 / body	15 分	●													
	中心静脈注射	デキサート注射液6.6mg/2mL	1 本 / body		●													
	中心静脈注射	ボラミン注5mg/1mL	1 本 / body		●													
3	主ルート	生食250mL	1 本 / body		●													
	中心静脈注射	アービタックス	400 mg / m ²	2 時間	●													
4	主ルート	生食250mL	1 本 / body										●					
	中心静脈注射	アービタックス	250 mg / m ²	60 分									●					
5	主ルート	生食100mL	1 本 / body	60 分									●					
	中心静脈注射		/															
6	主ルート	生食250mL	1 本 / body	30 分	●													
	中心静脈注射	ホスアプレビタント注150mg	1 本 / body		●													
		抗がん剤投与の1時間前に30分かけて点																
7	主ルート	ハロ/セロン注ハッグ0.75mg50mL	1 本 / body	30 分	●													
	中心静脈注射		/															
8	主ルート	5%ブドウ糖液500mL	1 本 / body	90 分	●													
	中心静脈注射	イリノテカン	150 mg / m ²		●													
9		Rp8とRp.9を同時に投与開始する																
	側管	5%ブドウ糖液250mL	1 本 / body	2 時間	●													
	中心静脈注射	レボホリナート	200 mg / m ²		●													
10		Rp.8とRp9を同時に投与開始する																
	主ルート	生食50mL	1 本 / body	5 分	●													
11	中心静脈注射	5-FU	400 mg / m ²		●													
	主ルート	生食100mL	1 本 / body	46 時間	●													
	中心静脈注射	携帯型デイスポンザブル注入ポンプ	2400 mg / m ²		●													
		希釈後の液量は総量140mLとなるよう調製																

※並行して投与する場合は、コメントを入力する。(例:Rp2とRp3を同時に投与開始する。)

【投与上の注意】

- 穿刺時、生食を使用し、ポートの通過を確認すること
- Rp.8とRp.9を同時に投与開始する
- ホスアプレビタントは血管痛が報告されているため、溶解には可能な限り生食250mLを使用すること(最低でも100mL以上)。
- ホスアプレビタントは抗がん剤投与の1時間前に30分かけて点滴すること。
- ホスアプレビタントの次に5-HT3受容体拮抗薬+デキサート注を投与して、その次に抗がん剤を投与すること。
- アービタックス:希釈は生食のみ。
- アービタックス:前投薬として、アービタックス投与前に、ボラミン注及びデキサート注が必要。
- アービタックス:投与終了後は、infusion reactionを観察するため、1時間の観察時間が必要であり、単独投与の場合は初回アービタックス投与後生食100mLを1時間かけて滴下する。
- アービタックス:投与速度は1回目のみ2時間、2回目以降1時間。
- アービタックス:投与終了後は、本剤と同じ速度でラインを生食でフラッシュすること。
- アービタックス:初回投与時は、400mg/m²を2時間かけて投与、2回目以降は250mg/m²を1時間かけて投与すること。
- day1 デキサート注は、3.3mgでも可